

高齢者の「転倒・転落」によるケガに注意

高齢者のケガや事故が多くなっていることを踏まえ、セーフコミュニティでは、「高齢者の安全対策委員会」を設置しました。平成20年から5年間の救急搬送データ（3907件）のうち、最も多くを占める「転倒・転落」による搬送は、1192件ありました。これを年齢階層別にみると、65歳以上の高齢者の割合が高く、特に75歳以上の高齢者が、約半数に達していました。75歳以上の高齢者の「転倒・転落」による受傷の特徴として、特に「自宅」で転倒する事例が多く、玄関や階段など段差のあるところで発生しています（図1参照）。また、大腿部に受傷する人が多く、この場合、重症化する割合が高くなっていました。時間帯

では、午前中（8時～正午）の搬送件数が多いのも特徴的です。委員会の議論でも、「高齢者の自宅でのケガが多い」という意見が多く出されました。今後、高齢者の「転倒・転落」による受傷を予防する対策を検討していきます。

セーフスクールの横断幕設置

現在、秩父第二中学校、花の木小学校、南小学校をモデル校として、セーフスクールに取り組んでいます。このたび、3校に横断幕を設置しました。今後、平成27年度の認証取得に向けて、安全な学校環境づくりに取り組んでいきます。

高齢者の転倒・転落（主な発生場所）

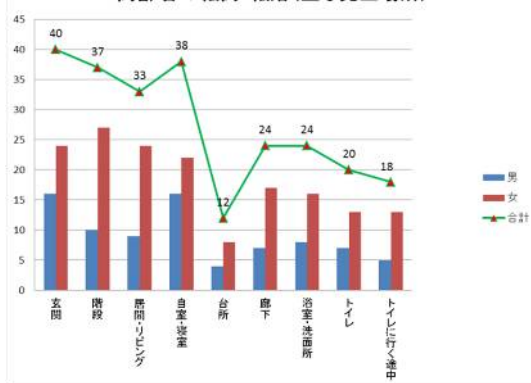


図1



南小学校の屋上に取り付けた横断幕